



RPCA

# RPCA 製品審査基準 適合証明書

証明書番号 II 2 2 - C P 5 8 号

旭コンクリート工業株式会社 殿

貴社の「PCボックスカルバート」は、当協会道路プレキャストコンクリート工技術審査委員会における審査の結果、下記のとおりRPCA製品審査基準に適合したことを証明します。

一般社団法人 道路プレキャストコンクリート製品技術協会

会 長 棚橋



記

## 1. 基本事項

製 品 名：PCボックスカルバート

製品区分：II群製品

PCボックスカルバート 従来型（2分割）

証明書有効期間：2023年4月1日～2026年3月31日

## 2.申請区分

品種区分		申請区分	
製品区分	目群	重要度	重要度1
大分類	カルバート工	要求性能;常時	性能1
中分類	PCボックスカルバート	要求性能;地震時	みなし規定:L1-性能1、L2-性能2
小分類	従来型 (2分割)	規格の範囲	B×H= 600×600mm ~ 5000×2500mm
申請区分	製品-カP-2		

## 3.製品審査結果

中項目	審査項目及び審査基準			判定	審査条件
	小項目	審査基準			
荷重(常時)	死荷重	自重	鉄筋コンクリート単位体積重量	$\gamma_c=24.5 \text{ kN/m}^3$	clear
	活荷重		荷重	T-25活荷重に解表4-3の衝撃係数を乗じていること。	clear
			載荷方法	分布荷重として載荷していること。	clear
	土圧	鉛直土圧	単位体積重量	通常 $\gamma=18\sim 20 \text{ kN/m}^3$	clear
			鉛直土圧係数	解表5-3に適合していること。	clear
			土かぶり	規格品の適用土被りは0.5~6.0m、規格外の土かぶりは0.5m以上であること。	clear
		水平土圧	水平土圧係数	道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [34] (解5-2)	clear
	活荷重による土圧	通常 $10\text{kN/m}^2$	clear		
荷重の組合せ	常時の作用 死荷重+活荷重+土圧		常時のみ。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [22]~[23] 3.2 設計に用いる荷重)	clear	
材料及び設計諸定数	コンクリートの設計基準強度		PC構造: $f_{ck}=40\text{N/mm}^2$ 以上であること。	clear	
	鉄筋		SD295、SD345を標準とすること。	clear	
	PC鋼材		B種1号、B種2号、C種1号を標準とすること。	clear	
	設計計算に用いるヤング係数		鉄筋コンクリート部材の応力度の計算に用いるヤング係数 $E_c$ は15とする。 (道路PCa工指針 第2編 コンクリート編4) 2.3 設計計算に用いるヤング係数)	clear	
	設計に用いる定数		コンクリートのクリープ係数が設定されていること。	clear	
			コンクリートの乾燥収縮率が設定されていること。	clear	
		PC鋼材の見かけのリラクゼーション率が設定されていること。	clear		
許容応力度	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度		道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear	
	コンクリートの許容せん断応力度		道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear	
	鉄筋の許容応力度		道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear	
	PC鋼材の許容応力度		道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear	
安定性の照査	支持力(基礎地盤の照査)、浮力		道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [45]~[48] 4.4基礎地盤の照査	clear	
部材の安全性の照査	解析方法			許容応力度法によること。	clear
	構造耐力	曲げ応力度	頂版端部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			頂版支間部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			底版端部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			底版支間部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
		せん断応力度	側壁端部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			側壁支間部	プレストレストコンクリート部材の圧縮応力度と引張応力度が許容応力度以下であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			頂版	発生応力度が許容応力度(補正後の値)以下であること。 せん断照査位置が適切であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
			底版	発生応力度が許容応力度(補正後の値)以下であること。 せん断照査位置が適切であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear
	側壁	側壁上	発生応力度が許容応力度(補正後の値)以下であること。 せん断照査位置が適切であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear	
		側壁下	発生応力度が許容応力度(補正後の値)以下であること。 せん断照査位置が適切であること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [42] 4.3.4 プレストレストコンクリート部材の照査)	clear	

## 3.製品審査結果

中項目		審査項目及び審査基準		判定	概要条件
中項目	小項目	審査項目	審査基準		
部材の安全性の検証	耐久性	鉄筋のかぶり	コンクリート強度35N/㎠以上の場合、25mmかつ鉄筋径以上	clear	
			コンクリート強度30N/㎠以上35N/㎠未満の場合、32mmかつ鉄筋径以上 (道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [14] 4.2鉄筋のかぶり、[19] コンクリートの耐久性の検討)		
構造細目	鉄筋のあき		粗骨材の最大寸法5/4以上かつ鉄筋径以上であること。	clear	
	配力鉄筋		主鉄筋の1/8以上であること。	clear	
	鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状		道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [14]～[18] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目	clear	
	最小鉄筋量		部材断面積の0.15%以上であること。	clear	
	最大鉄筋量		有効断面積の2.0%以下であること。 2%を超えた場合は、約合い鉄筋量以下とする。	clear	
	圧縮鉄筋		引張側の主鉄筋の1/8以上であること。	clear	
	グラッド筋		グリッド筋の本数が十分であること。 アンカープレートと平行および平行に近い角度で有効に働くように配置されていること。	clear	
その他の仕様	基礎コンクリート	設計基準強度	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 基礎コンクリートの設計基準強度は18N/㎠以上であること。 (道路PCa工指針 第4編 カルバート工編 [6]～[10] 2.2.1 道路PCaカルバートの構造形式及び基礎地盤対策の選定)	clear	
		厚さ	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 基礎コンクリートの設計基準強度は18N/㎠以上であること。 (道路PCa工指針 第4編 カルバート工編 [6]～[10] 2.2.1 道路PCaカルバートの構造形式及び基礎地盤対策の選定)	clear	
	基礎材	使用材料	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 基礎コンクリートの設計基準強度は18N/㎠以上であること。 (道路PCa工指針 第4編 カルバート工編 [6]～[10] 2.2.1 道路PCaカルバートの構造形式及び基礎地盤対策の選定)	clear	
		厚さ	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 基礎コンクリートの設計基準強度は18N/㎠以上であること。 (道路PCa工指針 第4編 カルバート工編 [6]～[10] 2.2.1 道路PCaカルバートの構造形式及び基礎地盤対策の選定)	clear	
	躯体同士の連結構造	連結構造	止水性を確保できること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [14]～[20] 3.1.4 道路PCaカルバートに用いる継手の要求性能と適用性)	clear	
施工	施工マニュアル	施工の手順	施工マニュアル等に記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [66]～[82] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.7 施工管理)	clear	
		施工の留意点	施工マニュアル等に記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [66]～[82] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.7 施工管理)	clear	
製品の品質	外觀	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]～[17] 第3章 検査)	clear	
	形状寸法	検査頻度・方法、測定箇所、形状寸法及び寸法許容差、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]～[17] 第3章 検査)	clear	
	コンクリートの圧縮強度	試験頻度・方法、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]～[17] 第3章 検査)	clear	
	曲げひび割れ耐力	試験頻度・方法、載荷荷重、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]～[17] 第3章 検査)	clear	
材料の品質	品質	使用する材料の品質	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]～[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	
	受入検査	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]～[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	
	貯蔵	貯蔵の管理方法	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第5編 カルバート工編 [62]～[66] 第4章 道路PCaボックスカルバートの設計と施工 4.6 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]～[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	

 審査委員会  
 委員長

宮川 豊

